

バセット・ハウンドの改訂部分

改訂	現行
<p>■沿革 <u>バセット・ハウンドは中世にフランスの修道士によって密林での猟のために繁殖されたと言われており、地面に鼻を近づけた状態であることができる。フランスのバセット犬種全てと近縁関係にあるが、完全な域まで成長したのはイギリスに於いてである。当該犬種は自然の獲物である野ウサギを比較的ゆっくりとしたペースで、非常に長い距離を粘り強く狩ることのできる犬種である。</u></p> <p>■一般外貌 <u>サブスタンスに富んだ短足のハウンドで、バランスがよく取れており、有能である。ワーキング・ハウンドであること及び、用途に適している必要があるため、頑丈で、活発で、フィールドでは多大な耐久力を発揮しなければならないことを心に留めることが重要である。</u></p> <p>■頭部 <u>額と目の横には少量の皺がある場合がある。いずれにしても、頭部の皮膚は前に引っ張ったり頭部を下げたりすると僅かに皺が寄る程十分に柔らかい。</u></p> <p>□頭蓋部 <u>マズルの上部はストップからオクシパットまでのラインとほぼ平行で、ストップからオクシパットまでの長さより長いことはない。</u></p> <p>□顔部 <u>マズル前顔部の一般外貌はすっきりしており、スニッピーではない。</u></p> <p>顎／歯 <u>顎は頑丈で、完璧な、歯列の正しい、欠歯のないシザーズ・バイトである。つまり、上の歯は下の歯にぴったりと重なり、歯は顎に対して垂直に生えている。</u></p> <p>■目 <u>菱形で、目立ちすぎず、奥まり過ぎず、ダークだが、明るい毛色のハウンドの場合はミッド・ブラウンになることもある。表情は落ち着いており、真剣である。明るい目または黄色の目は非常に望ましくない。</u></p>	<p>■沿革 <u>バセット・ハウンドの祖先犬は16世紀のフランスの赤鹿狩り用の猟犬に遡り、(中略)嗅覚が優れていることや独特のひびきのある吠え声をもつ犬としても知られている。</u></p> <p>■一般外貌 <u>体躯構成と実質に富み、バランスの取れた、多くの資質を持つ、脚の短いハウンドである。適度なたるみのある皮膚が好ましい。</u></p> <p>■頭部 <u>マズルの上部はストップからオクシパット(後頭部)までのラインとほぼ平行で、ストップからオクシパットまでの長さより長いことはない。額と目の横には適度な量の皺がある。頭部の皮膚には、前に引っ張られても、頭部が下げられても目立つほど十分なたるみがある。</u></p> <p>□顔部 <u>マズルマズルの一般外貌はすっきりしており、すニッピーではない。</u></p> <p>顎／歯 <u>顎は力強く、完璧な、歯列の正しい、欠歯のないシザーズ・バイトで、顎に対して垂直に生えている。</u></p> <p>■目 <u>ひし形で、目立ちすぎず、奥まりすぎず、色はダークだが、(中略)表情には落ち着きと真剣さが宿っている。下瞼の赤い部分は見えるが、過度ではない。明るい目の色や黄色い目は非常に好ましくない。</u></p>

■耳

付け根は低く、目のラインのすぐ下に付く。長く、適切な長さのマズルの付け根から僅かに越える程度であるが、過度に長くはない。全体的に耳の幅は狭く、内側によくカールしており、たいへんしなやかで、きめ細かく、ベルベットのような質感である。

■ボディ

背

どちらかという幅広く、水平である。キ甲から後躯の始まりまでは過度に長くない。

胸

(略) 肋は十分に丸みを帯び、張っており、フランジはなく、後方へ十分に伸びている。

アンダーライン及び腹部

あらゆるタイプの地形に於いて自由に動けるよう地面から胸底までの距離は十分にあるべきである。

■尾

付け根はしっかりしており、どちらかという長く、根元は強く、先細っており、尾の裏側に適度な量の粗毛が生えている。(略)

■四肢

□前 軀

一般外貌

前腕は僅かに内向しているが、自由な動きを妨げたり、立姿時や活動時に互いの脚が触れたりする程過度ではない。皮膚の皺が脚の下部に生じる場合もあるが、決して過度であってはならない。

前 腕

短く、力強く、丈夫な骨である。

手 根

□後 軀

一般外貌

(略)

飛節と足の間には皮膚の皺が生じる場合があり、関節の後方には僅かなたるみが見られることも

■耳

付け根は低く、目のすぐ下のラインから始まる。正しい長さの耳はマズルの先端を十分に越えるほど長いが、適度には長すぎない。幅は狭く、内側に十分に折れ曲がる。たいへんしなやかで、手触りは見事でベルベットのようなものである。

■ボディ

□背

平らで、どちらかという幅広いが、過度には長くない。

□胸

(略) 肋は十分に丸みを帯び、十分に張っており、フランジはなく、十分に後部まで達している。

(追加)

■尾

付け根はしっかりしており、どちらかという長く、先細り、尾の裏側には適度な量の粗毛が生えている。(略)

■四肢

□前 肢

前脚は短く、力強く、骨は頑丈である。脚の下部の皮膚には皺が入っている。

前腕

前腕の上部は僅かに内向しているが、自由な動きを妨げるほどではなく、立っている時や動いている時に、脚と脚が接するほどではない。

中手

□後 肢

(略)

飛節と足の間には皺が入ることがあり、関節の後ろには、皮膚のゆるみから僅かなたるみが見られることがある。

あるが、いずれも過度であってはならない。

中 足

飛節は十分に低くつき、下部は僅かに曲がっているが、内向も外向もしておらず、自然に立っている時にはそのまま体の真下にある。

■歩 様

最も重要なのは用途に適していることを確認することである。スムーズで、力強く、楽々とした動きで、前脚は十分に前方に伸び、後脚は力強い推進力を示し、前後に真っ直ぐに動く。(略)

■皮 膚

しなやかで、弾力性があるが、過度ではない。

■被 毛

毛

スムーズで、短く、密着しているが、細すぎない。
(略)

■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度、犬の健康及び福利並びに伝統的な作業を行うための能力への影響に比例するものとする。

注：・牡犬は明らかに正常な2つの睪丸が陰囊内に完全に下降していること。

- ・機能的かつ臨床的に健全であり、犬種のタイプを有しているもののみが繁殖に使用されるべきである。

飛節

十分低い位置についており、下部は僅かに曲がっているが、内向も外交もしておらず、自然に立っている時にはボディの真下にある。

■歩 様

たいへん重要である。後脚の力強い推進力により、前脚も十分に伸びる。スムーズで、自由な歩様で、前にも後ろにも正確に動く。(略)

(追加)

■被 毛

□毛

被毛はスムーズで、短く、密生しているが、細すぎない。(略)

■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度に比例するものとする。

(追加)